

# 第70回日本PTA全国研究大会山形大会に参加して

富士市PTA連絡協議会

副会長 橋本 仁

【第70回日本PTA全国研究大会山形大会】に、参加させていただきました。

下記にご報告をします。

## 1. 概要

### 1) 分科会

実施日時：令和4年8月26日（金）12時～17時

参加分科会：特別第2分科会 文部科学省協力

研究課題：メディア・リテラシー育成における学校教育と家庭教育の役割

会場：やまぎん県民ホール（山形市）

### 2) 全体会

実施日時：令和4年8月27日（土）9時～12時30分

会場：山形市総合スポーツセンター（山形市）

## 2. 補足

### 1) 分科会

－ 1 次第：①歓迎アトラクション→②開会行事→③基調講演→④実践発表→

⑤パネルディスカッション→⑥閉会行事

－ 2 歓迎アトラクション：【太恵（TAISHIN）】拠点・東北芸術工科大学

－ 3 基調講演（テーマ）：【GIGA スクール構想で育むメディア・リテラシー】

（講演者）：【佐藤 和紀（さとう かずのり）】氏（現 信州大学教育学部准教授）

－ 4 実践発表：上山市PTA連合協議会の方々（個人情報のため、記載せず）

－ 5 パネルディスカッション：コーディネーター・パネリスト（個人情報のため、記載せず）

### 2) 全体会

－ 1 次第：①歓迎アトラクション→②開会行事→③記念講演→④閉会行事

－ 2 歓迎アトラクション：【朝倉さや（歌唱）】・【山伏／出羽三山神社（法螺貝）】・【良絃会（伴奏）】

【又新連／村上産業高校（徳内ばやし、伴奏）】・【四面楚歌／山形大学（花笠踊）】

－ 3 記念講演（演題）：【「一本のタクト」は、人のこころを豊かに幸せにするアイテム

ライブでしか味わえないお話と演奏をあなたに…】

（講師）：【飯森範親（いいもり のりちか）】氏（現 山形交響楽団桂冠指揮者）

（記念演奏会）：【山形交響楽団】

### 3. 所感

#### ー 1 分科会

- ・富士市でも小中学校のICT環境の整備が進み、一人一台のタブレット（低学年は除く）を活用した学習が進められており、児童生徒が日常的に情報端末を活用し、調べたりまとめたり発表したりとする活動が展開されています。  
また、リモートやオンデマンド授業等でも活用されつつあり、より活用が進む可能性もあります。
- ・それらの活動があたりまえの世界≡GIGAスクール構想の一端だと認識していましたが、基調講演では、メディア・リテラシー（情報活用能力）の育成した上での活用の重要性を説いていました。
- ・OECD（経済協力開発機構）のデータでは、日本人の子どもたちのICT活用率が他の国・他の地域と比較して低いこと。コロナ禍でもICT環境の整備とともに伸びてはいるが、未だに最低レベル。
- ・これら低迷する要因として、①教師側がICT教育に積極的ではない。②家庭教育も理解が得られていない。等があるようです。
- ・例として、『1957年にBBCが放送したスイスでスパゲティが豊作』（スパゲティの木）を題材にしました。それは、エイプリルフールネタとして実際に放送されたそうですが、3000件以上の問い合わせがあったようです。（Web検索しても出てきます）
- ・私たち大人は、スパゲティを木で栽培しないこと等のフェイクニュース的な要素は批判的に対応しますが、子どもたちはそれらの情報を批判的に読解する能力が劣っています。
- ・昔から、人の噂話やチェーンメールがあり、今ではフェイクニュースやフェイク動画等が溢れています。ひと昔前は、図書館等を活用していましたが、現在は調べようとすれば検索すればすぐに分かります。但し、それらの出所・出典元を把握すること、真偽を見極めること等、情報量が多くなった世の中では情報を活用する能力（≡メディア・リテラシー）の育成に取り組む必要があると共感しました。
- ・従来の教育現場では、一斉指導（先生一人に生徒・児童多数）が当たり前でした。その場合、個々の理解度の把握がすぐには出来ません。課題をみんなで考えて解決出来るようになってませんでした。
- ・GIGAスクール構想でメディア・リテラシー（情報活用能力）を育むためには、教師側の努力が必要不可欠です。ある学校では、80名の生徒に対して3名の教師が指導する。という授業を行っています。
- ・従来では3クラスに分けて一斉指導を行うところですが、ICT環境の整備から一斉・ペア・個別と指導方法を子どもたちが選択出来るようにしたそうです。一斉授業を選択すれば先生と一緒に、ペアを選択すれば友だちと一緒に、個別を選択すれば一人で気兼ねなく行えます。遊んでしまう子どもも出てくる可能性もありますが、理解度をリアルタイムで把握出来るようにしておけば良いですし、一斉指導の教師以外でサポートすれば、ペア・個別の子どもたちが取り残される心配も減ります。
- ・それらの授業に取り組むことによって、子ども同士や多様な他者と協働し、人とひととのつながりを体感する中で学ぶ『協働的な学び』の能力が養われ、大人と同様に仕事で役立つ能力（問題解決する能力）が身についていくことでしょう。
- ・ある小学校では、『30歳になった私』と題してその姿を思い浮かべ、その目標のために『どんな力が必要か』『どうすればその力が手に出来るのか』等、『生涯にわたって学び続けられる力』を養う授業を行っています。
- ・それはまさに仕事に直結するカタチで、目標設定（ゴールイメージ）と目的意識（なぜそれをやるのか）を学んでいるのは、正直自分の子ども時代では想像は出来ませんでした。
- ・そのような環境で育つ子どもたちの能力を伸ばすためにも、PTAとしても協力できるような体制作りが必要になると感じ、その際にはお手伝いしたいと思います。

## ー 2 全体会

- ・まずは、歓迎アトラクションのステージでの迫力が凄かったです。地域性もありますが、歴史と伝統を引き継いでいるパフォーマンスが多く、ザ・東北という感じでした。
- ・3年ぶりの全国研究大会ということもあり、主催者側もパフォーマーの方々も、気合いが入り熱気が凄かったです。
- ・記念講演では、幼少期での親子でのエピソードや山形交響楽団に就任（当初は音楽監督として）した際の苦労や意識の違い、そして改善していった結果、地方の交響楽団から日本の音楽文化を代表するオーケストラとしての地位を確立した。等、お話しをされました。
- ・記念演奏会は、馴染みのある曲ばかりで分かりやすく、『〇〇のない音楽会』みたいに解説もあり、楽しい時間を過ごさせていただきました。少し残念だったのは、コンサートに適した場所ではなかったのに、ロゼシアターの大ホールで聴くことができたのもっと良かったのに、と思いました。
- ・来年度の全国研究大会は広島大会です。全国研究大会山形大会以上の熱気に包まれることを期待するとともに、今後も富士市PTA連絡協議会として、単位PTAとしてもモチベーション上げて取り組んでいきたいと強く思いました。

以上